

[第8章 演習問題(p.190)解答例]

たとえば、志向性から態度へのパスを削除してみよう（なお、態度に影響を及ぼす要因がなくなるので、同時にe8も削除する）。このようにして分析を行うと

GFI=.912, AGFI=.796, RMR=1.716, AIC=67.255

となる。AGFIがより高く、AICがより低くなっているので、p.187～189のモデルよりはデータにうまく適合するモデルとなる。

この場合、自分や他者を信頼している人ほど、またケンカに対して肯定的な態度をとる人ほど、ケンカをしても関係が修復できるという信念を持つと考えられる。

他にもモデルを考えることができるので、いろいろと試してみしてほしい。

[第9章 演習問題(p.209)解答例]

友人の評価から自信への影響を表すパス図は以下の通りである。

このデータの場合、友人から自信へのパス係数（標準化係数）は-.08で有意ではない。

したがって、友人の評価は自信に対してほとんど影響を及ぼさないと考えられる。

